

# 平成 26 年度事業計画及び収支予算書

---

## 目次

I 総括	74
II 委員会活動計画	75
運営本部	75
教育事業本部	76
技術本部	79
ET 事業本部	84
III 支部活動計画	85
北海道支部	85
東北支部	85
東京支部	86
中部支部	87
北陸支部	88
近畿支部	88
九州支部	90
IV 平成 26 年度事収支予算書	92

# 平成 26 年度事業計画

---

## I . 総括

我が国経済は、円安・株高を背景に緩やかな回復基調となっている。企業の景況感も改善し、情報システム投資意欲も高まりつつある。一方、組込みシステム業界では、一部での改善の動きがみられるが、全体的な回復基調までには至っていない。

こうした環境の下、当協会は一般社団法人としての 3 期目を迎える、公益目的事業、共益事業、そしてそれら支える収益事業を円滑に進めることで組込みシステム業界の発展および地位向上に寄与していきたい。

平成 26 年度の重点推進事業を下記の 7 項目とし、予算措置を含めた実施体制の強化でのぞみ、会員増強につなげる所存である。

### 平成 26 年度重点事業項目

1. 組込みシステム技術の調査研究活動の推進と研究成果の戦略的情報発信
2. 協業活動の強化推進  
エンドユーザおよび異業種業界との協業イベント推進
3. 国際化推進  
グローバル化推進企画及び海外関連団体との具体的な連携
4. 組込みソフトウェア技術者試験(ETEC)の普及拡大  
ETEC クラス 1 試験の実施およびクラス2の戦略的展開
5. ET 展示会の拡充(公益事業を支える収益事業としての維持拡大)
6. 地域活動の強化  
支部との連携による協会事業展開及び地域関連団体との交流
7. 関連団体との情報交換及び連携事業推進

## II. 委員会活動計画

---

### 運営本部

#### 広報委員会

協会活動を主に積極的な広報を展開する。

機関誌では、技術・業界動向、協会活動状況、会員情報等を掲載し、会員のみならず関連機関、教育機関等に向け、また ET 展での配布など広報誌としても活用する。会員増強のための広報誌という位置づけを強く打ち出し、会員企業の紹介を充実させるなど、コンテンツ面で会員メリットをアピールするとともに、配布先を増やす活動を行う。

HP では、JASA からの情報公開・提供を促進するため、委員会活動と成果、支部活動、イベント情報、コラム等を広く発信する。併せて、メーリングリスト活用による情報提供・交換を行う。(会員、JASA、ET、委員会等)

##### 1. 機関誌発行

協会活動等の広報「Bulletin JASA」年 4 回発行

##### 2. ホームページ運営・管理

協会ホームページ運用による広報・周知等

- ・ サーバー運用管理及び情報、コンテンツ掲載、更新等
- ・ コンテンツとして、技術者や教育担当者による座談会を実施(8 月)

##### 3. 協会広報

協会案内パンフレット作成、媒体活用等による広報及びリリース

#### 国際委員会

##### 1. 委員会の開催

委員会としての課題を探るため、識者に依頼して「委員会スピーチ」の機会を設ける。(隔月開催)

##### 2. 海外視察の企画・実施、海外協会への委員派遣

- ・ JASA会員企業向けの海外視察ツアーを企画・実施。
- ・ 海外委員会を含めた JASA 会員企業から海外協会への委員等の派遣を実施。

##### 3. JASA グローバルフォーラムの開催

ET2014 開催の機会を利用した「JASA Global Forum」を計画・推進する。

##### 4. 「国際だより」の発信

JASA ホームページに「JASA 国際だより」を設け、国際委員会から積極的に情報発信を行っていく。

## 協業推進委員会

組込みシステム開発企業(川上)の地域交流と川下のマッチング環境を提供する。

### 1. 定例委員会

イベント企画・運営の検討を行う。(隔月開催)

### 2. JASA 交流セミナー

- 北海道内における、JASA のプレゼンス向上と、地域関連団体ならびに、地元企業との協力体制の強化。(第 1 四半期)
- 九州支部を介して九州内の JASA のプレゼンスを高め、九州経産局や地域関連団体の後援を得て、九州の地元産業へのアプローチを行う。(第 4 四半期)

### 3. 協業マッチング

ET2014の機会を捉え、関東近県での協業マッチングを行う。

### 4. CSAJ 合同開催アライアンスビジネス交流会

コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)と合同で、有形・無形のプロダクト保持企業と販売会社間のマッチングを行う。2014 年 11 月 26 日(水)予定。

## 教育事業本部

## ETEC 企画委員会

### 1. 委員会運営

受験トラフィック、販促イベント等の諸施策を検討する。(隔月開催)

### 2. クラス1問題作成(WG)

新規試験として組込みソフトウェア技術者試験クラス1(SW1)の運用に向け、第1四半期に試験問題の精査の上、第2四半期より運用を開始する。

### 3. クラス1試験運用

クラス1は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。2014 年度は、市場ごとの施策展開の下、年間 250 試験を見積もる。

### 4. クラス1販促活動

クラス2(SW2)500 スコア以上取得者=クラス1(SW1)受験有資格者に対する周知徹底。運用開始時の優待受験キャンペーンと、会員優待料金設定。クラス1受験者のうち、250 試験を見積もる。

### 5. クラス2問題作成(WG)

組込みソフトウェア技術者試験クラス2(SW2)は運用開始後 8 年を経過し、約 1 万試験の実績を築いた。結果データを統計分析したうえで、出題分野・レベルを時代背景に沿って再設定する。

### 6. クラス2試験運用

クラス2は、Pearson VUE 社に試験実施を委託し、ACSP 社に証明書発行発送業務を委託している。2014 年度は、市場ごとの施策展開の下、年間 1,450 試験を見積もる。

## 7. クラス2販促活動

法人市場：JASA 会員割引継続、クラス2受験者のうち、年間 750 試験を見積もる。  
新卒雇用時期の受験と、年度内リピート受験に対する割引キャンペーンを実施する。  
(上期の受験に対して、下期用に 1 試験無料)

学生市場：学校法人に対して、学割受験バウチャーと職業紹介サービスの周知徹底。  
クラス2受験者のうち、年間 300 試験を見積もる。

## 8. クラス1,2

個人市場：クラス1(SW1)、クラス2(SW2)の学習参考図書を選定し、出版社とのタイアップを図る。  
相互周知。

優待受験価格設定(5~10%)クラス2受験者のうち、年間 100 試験を見積もる。

広告宣伝：ETWest2014(7月)、ET2014(11月)の機会を捉え、出展者ならびに来場者にETECを認知してもらうため、ブースを出展し、説明ならびに模擬受験を行う。

---

## 研修委員会

---

学校法人との連携を強化して、若年層の組込みシステム開発業界への関心を高め、実践型人材育成し、業界への雇用を促進させる。

### 1. 委員会の開催

委員全員を対象とした会議を隔月で開催する。

### 2. BulletinJasa 等の配達

Bulletin JASA や ET,ETWest 等、タイムリーな情報を学校法人に配達する。

### 3. ET, ET-West

企業が求める人物像について、下記の調査結果をプレゼンする。

### 4. 求人調査

全会員向けに、Web アンケートを実施し、調査結果を集計・分析し、報告書を作成する。また、本調査報告を元に、ET 展等を介して、プレゼンする。

### 5. 訪問調査活動

直接学校法人を訪問し、研修委員会(教育事業本部)の活動成果を報告するとともに、業界団体への要望をヒアリングする。

### 6. 講演活動

要請に応じて、組込みソフトウェア開発専攻の学生向けに業界講話をを行う。

### 7. 「職業実践専門課程」への対応

文科省の専門学校向け产学連携による実践教育、「職業実践専門課程」のモデルカリキュラムを策定と、上記5・6事業も含め、専門学校の経営陣へのアプローチと教職員とのコミュニケーション(研鑽会)

### 8. 产学連携スマート人財育成

JAIST/KIT と実践型スマート人財育成事業の評価システムを構築する。

### 9. 人材育成支援 WG

必要な要員配置、育成を計画的に行うこと推奨する為、共通キャリア・スキルフレームワークの導入を検討する。

---

## ET ロボコン実行委員会

---

組込みソフトウェア技術者的人材育成・教育を目的として、全国 11 地区にて、研修と地区大会を実施する。地区大会は、モデル審査と走行競技により行われ、終了後にはワークショップも開催する。

走行競技は時代の要請を鑑み、H25 年度よりデベロッパー部門とアキテクト部門の2部門制とした。H26 年度からはさらにデベロッパー部門を、「プライマリークラス」と「アドバンストクラス」の 2 つのクラスに分けて実施する。

各地区の優秀チームによるチャンピオンシップ大会(走行競技、ワークショップ)を ET2014 併催イベントとして開催する。

1. 地区大会

全国 11 地区にて研修及び地区大会(モデル審査・競技及びワークショップ)を実施運営する。

2. チャンピオンシップ大会

各地区優秀チームによるチャンピオンシップ大会(競技及びワークショップ)を実施運営する。

## 技術本部

### 1. 技術本部会議

技術本部の活動を総括するため、本部会議を実施する。(隔月開催予定)

### 2. 成果発表会

各委員会の前年度の活動成果を、会員や一般向けに発表する。

### 3. 技術本部セミナー

ET2014 にて、年度の中間成果を中心に、オープンセミナーを開催する。

### 4. ET 展 JASA ブースでの活動

ポスターの展示やセミナー、アンケート調査を行う。

## 安全性向上委員会

機能安全と情報セキュリティに関して、技術動向を調査するとともに、SSQ(Safety, Security, Quality)の課題・あるべき姿をメンバーで議論しビジネスへの展開も検討し、またOpenELとの連携も視野に入れて活動する。

大学、研究機構、IPAなど外部連携を積極的に推進することにより、オープンイノベーションの可能性を探り、その機会を活かすために委員会の活動体制も柔軟に見直す。

### 1. 委員会活動

定例会を開催し、アドバイザーを招き、技術動向の調査、SSQ の議論などを行い、もって、ビジネス応用を検討する。

### 2. 合宿

活動内容の集中討議を行うとともに委員間の交流を図る。(6 月または 9 月予定)

### 3. 外部発表

- ・ 技術本部成果発表会(5 月)
- ・ ET2014 技術本部セミナー(11 月)

### 4. 勉強会

本委員会に関するホットな話題について外部から講師を招聘し、最新技術情報を収集するとともに外部交流を進める。

## CMSiS

組込み開発企業や我が国の経済基盤である中小企業に特化した ISO27001 準拠の情報セキュリティとして CMSiS 認証を推進する。

今期は顧客開拓を最優先とし CMSiS の普及を図る。

#### 1. 営業活動

潜在顧客へ訪問活動を実施する。(京都、大阪、九州)

#### 2. セミナー開催

認証組織 ISA、認証教育団体グローバルテクノのセミナーに参加する。

#### 3. 保守

仕様書等の改定作業を実施する。

#### 4. JISAとの連携

JISA 情報サービス産業協会の VSE(Very Small Entities) 活動と連携し、小規模組織のセキュリティ強化を推進する。

---

## 技術高度化委員会

---

### OSS 活用 WG

オープンソース・ソフトウェア(OSS)として、無料で高機能、高性能なソフトウェアが多数出回っている。しかし OSS にはライセンスや品質条件などの課題があり、その利用には課題の認識と対処が不可欠である。SI や受託開発に際し、OSS を活用し費用やリスクを最小限にとどめつつ、柔軟な対応力を提供するには、提供される OSS の技術内容、OSS に付帯するライセンス条件を配慮した開発体制やスキームの構築が重要な課題となる。

本委員会では、OSS の利用状況、ライセンス検出ツールの活用状況等の調査などを通して実態および課題を明らかにし、安全で柔軟な OSS 活用フレーム構築をめざし下記の活動を行う。

- OSS 利用に関する実態調査

- リスクマネジメントモデルの検討

- OSS ライセンスの検出ツールの調査と活用ガイドラインの作成

#### 1. OSS 活用委員会

活動方針の策定と計画の立案、活動の PDCA 制御(年 6 回開催予定)

#### 2. OSS フォーラムの開催

半日程度のフォーラムを開催し、活動成果全般を公開する。

#### 3. アンケート調査(ヒアリング含む)

OSS の会員利用実態を把握する為に Web ベースアンケート調査の実施や個別企業訪問を行う。

---

## 状態遷移設計研究会

---

### 「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」

既存ソースコードから、状態変数を抽出し状態遷移表をリバース生成する手法の研究。

- リバースモデリング手順のガイドの作成とツール化の検討。

- セミナー、講演会などの広報活動 他

#### 1. 定例会議

活動計画、進捗状況の確認を行う。

年10回程度開催を予定し、うち有識者レビュー3回、合宿検討会1回を実施する。

## 2. セミナー、各種団体との交流

地域を分けて、年2回程度の実施を計画。

## 3. ET、ETW

パネル展示、配布資料作成。

## モデルベース開発・検証研究会

本委員会はモデルベース開発の普及を図るため、QUESTの九州モデル駆動開発推進部会と協調し活動する。

### 1. 委員会活動

サンプルモデルとして九州大の例題を中心に、年6回の委員会で評価する。

### 2. セミナー

本研究会の活動報告と企業への先進的導入の為のセミナーを開催する。(下期年1回予定)

## 応用技術調査委員会

### 技術セミナーWG

#### 1. JASA/ET セミナー

有料セミナーを年間3回程度実施し、JASA会員および会員以外へ先端技術を紹介する。

#### 2. セミナー

無料セミナーを年間3回程度実施し、JASA会員および会員以外への組込み技術関連全般にわたるセミナーとする。

#### 3. 地方開催セミナー

地方への組込み技術の啓蒙活動と、JASAのプレゼンス向上を狙う。(名古屋、仙台で実施予定)

## プラットフォーム研究会

ロボットのマーケット、技術動向を調査するとともに、委員会で策定したOpenELの改良、普及活動を行う。

### 1. 委員会活動

医療、建設関係の調査研究を主とし、地方でのセミナー、WG、研究会を開催する。

アドバイザーを招き、技術動向などを検討するとともに、OpenEL の進捗状況等を確認、議論しフィードバックをかける。

## 2. 合宿

活動内容の集中討議を行うとともに、委員間の交流を図る。

## 3. 外部発表

- ・ 技術本部成果発表会(5月)
- ・ ET2014 技術本部セミナー(11月)
- ・ 国際ロボットカンファレンス 2014(時期未定)
- ・ RSJ 学術講演会(9月)
- ・ SI2014(12月)、雑誌等

## 4. 国際標準化活動

OMG 国際会議(6、9、12、3月の年4回)に参加し、OpenEL の標準化作業を推進する。  
ソースコードバージョン管理システムの導入。

---

## ハードウェア委員会

---

平成 26 年度「活動テーマ」

- 1) 日本のハードウェアエンジニアを育成する
- 2) 先端技術の調査

## 1. 研究会

議論の場として開催する。

## 2. 組込み企業現地調査

地方の組込み企業へ現地調査(年3回)

## 3. JPCA ショー出展

JPCA 会場にて委員会活動の発表を行う。

---

## プラグフェスト

---

共通のインターフェース規格を持つメーカー同士が、相互運用性を検証する技術イベントを開催する。

平成 26 年度も、春季と秋季に 2 度の実施を予定。

## 1. 日本プラグフェスト春季

JPCA Show 会期中の実施を予定。

## 2. 日本プラグフェスト秋季

東京都立産業技術研究センター、または地方開催を予定。

### 3. 実施計画策定のための打合せ

会場の選定や、参加受付け方法、運営の仕方等について議論する。

また他インターフェースとの共催、参加証明書の内容についても引き続き検討していく。

## ET事業本部

業界を牽引する JASA 主催イベントとして展開する。併せて、協会活動を周知することにより、事業への参画と会員増強に繋げる。

ET では、組込み業界の動向と方向性を見据え、新技術・ソリューションとビジネス情報の発信、対象分野と来場者層の拡大、グローバル化への対応を促進する。

West では、来場者・出展社にとって交通至便な大阪駅前に会場を移すことにより、更なる情報発信・提供の機会を拡大するとともに、地域産業の振興を図る。

## ET実行委員会

技術の普及・高度化、ビジネス機会拡大、業界振興を目的に、展示会の実施及びカンファレンスの企画・構築を行う。

Embedded Technology 2014／組込み総合技術展

会期：2014年11月19日(水)～21日(金)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール及び会議センター

展示規模：400社／800小間想定 来場者見込み：24,000名

カンファレンス規模：120セッション(予定)

併設イベント：ET ロボコンチャンピオンシップ大会

## ET-WEST実行委員会

技術の普及・高度化、地域産業振興を目的に、展示会及びカンファレンスの企画・構築を行う。

Embedded Technology West／組込み総合技術展 関西

会期：2014年7月29日(火)、30日(水)

会場：グランフロント大阪

展示規模：150小間想定(企画展示除く) 来場者見込：6,000名

カンファレンス：50セッション(予定)

同時開催：Smart Energy Japan in Osaka2014

併設イベント：ETロボコン West杯

### III 支部活動計画

#### 支部統括本部

各支部における事業の一貫性を調整し、その予算の妥当性を確認するため支部統括本部会議を開催する。

本年度の重点施策とし、会員拡大に対し下記目標を設定し進める。

東北支部:1社、東京支部:5社、中部支部:3社、北陸支部:4社、近畿支部3社  
計16社とする。

#### 北海道支部

本部との連携によるセミナー等を開催しJASAの活動を紹介し、認知度の向上および会員増強に努める。

##### 1. 支部会議

支部の活動方針の検討。(年1回開催)

##### 2. 協業セミナー

本部協業推進委員会と合同で、講師を招き、今後のビジネス活性化への知見を得るとともに、懇親会を開催することにより参加企業間の横の連携と、JASAのプレゼンスを高める。

#### 東北支部

地域産業活性化へ貢献することを目指し、会員間及び東北地域の他団体・教育／研究機関との交流をさらに深めていくと共に、各種イベント開催を通じて、東北地域への組込みシステム技術の普及・発展に向けた事業活動を積極的に推進していく。

また、TOHOKU組込みフォーラムと連携した展示会出展や協業推進にも積極的にも参画し、東北地域におけるビジネスマッチング創出に寄与する。

##### 1. 支部会議

支部事業の進捗状況の確認、次年度事業計画を検討する。(年5回開催)

##### 2. 新プロジェクト検討会

東北地域内にて会員企業を中心にビジネス創出を目的としたプロジェクトを立ち上げるため、アイディア検討とディスカッションを行う。 支部会議と同日開催。(年4回開催)

##### 3. オープンセミナー

JASA会員、JASA会員以外の企業、官公庁、自治体との交流促進、JASA事業の周知徹底、組込み業界動向の情報収集等を目的に、オープンセミナーと交流会を開催し活用していく。

支部会議と同日開催。(9月、1月開催)

##### 4. オープン技術セミナー

企業・他団体・教育／研究機関より講師を迎える、東北地域の組込み技術者に向けた、最新組込みシステム技術の普及啓発を行う。(8月、2月開催)

#### 5. 人材育成セミナー

IT エンジニアにとって必要なヒューマンスキルについて、外部講師を招いてセミナーを実施。IT エンジニアのヒューマンスキル能力向上に寄与する。(7月開催)

#### 6. 国内見学会

国内の企業、教育／研究機関等を見学し、組込みシステム技術の状況と今後の動向について調査し、会員の組込みシステム事業の発展に寄与する。(6月開催)

#### 7. 協業推進委員会共催事業

JASA ビジョンの実現の場として、本部の技術交流・協業推進委員会を活用する。  
東北 IT ソリューション EXPO 基調講演(技術セミナー委員会との共催。年 1 回開催)

#### 8. ET2014 事業

ET ロボコン東北地区大会と、ET2014 への対応。

#### 9. ビジネスマッチング事業

TOHOKU 組込みフォーラムとの連携事業の一環。東北地域に川下・川中企業を招聘、もしくは、川下企業内で展示活動を行い、会員企業を主としたマッチングの支援を積極的に行う。東北域内・域外で年4回開催。

#### 10. 組込み関連団体連携事業

組込みシステム事業に関連の見込める業界の研究開発補助事業や人材育成事業について、行政や他団体の施策も含めての情報を収集し、会員企業へのフィードバックを行う。また、施策への参画に当たっては、会員企業への支援を積極的に行う。

## 東京支部

会員間交流活性化、人脈形成、最新動向の提供、商談機会創出、人材育成等、会員企業の積極的な活動を促し、協会及び、業界全体の発展に寄与する。

#### 1. 事業推進ワーキンググループ

各事業の企画、推進、運営を行う。

#### 2. フレッシャーズセミナー

会員企業をはじめとした組込みシステム企業を対象とした新人研修セミナー(一般教養と組込み関連)を実施する。(第 1 四半期予定)

#### 3. 支部会議

- 平成 26 年度の東京支部事業計画の発表とセミナー開催及び東京支部会員の交流会を実施する。(第 1 四半期予定)

- ・ 次年度計画策定について支部会員へ策定・承認する会議を実施。また、講演会及び交流会を実施し、会員企業同士の交流を図る。(第4四半期予定)

#### 4. 支部例会

セミナー開催及び新入会員企業等による紹介プレゼンを実施したのち、交流会を開催する。

- ・ 講演会・納涼会(第2四半期予定)
- ・ 講演会・忘年会(第4四半期予定)

#### 5. 人材育成セミナー

若手社員、管理者、総務担当者、ITエンジニア等を対象にしたセミナーを実施する。(年1回開催)

#### 6. 就職説明会

組込みシステム業に関心のある、学生向けの就職合同説明会と就活生のためのセミナーを開催する。

#### 7. 異業種交流会

若手・中堅社員のための交流セミナーを開催する。

## 中部支部

産業の基幹技術でありモノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術も繋がる世界に視点を置いた技術開発が求められる時代になってきている。

当地域の得意分野といわれる車載関連、FA機器産業に蓄積されている技術とノウハウを積極的に活用し、研究開発機能を強化し、技術のみではなく管理的な知見も地元大学との連携を一層図っていく必要がある。

当支部では、会員相互の交流・啓発及び、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

#### 1. 国内外産業調査

- ・ 東南アジアの情報産業の実情とともに協業の可能性を調査するとともに中堅管理者の海外経験を積むことを目的。
- ・ 中部地域以外の地域の産業活動状況を調査するとともに地元支部や企業との交流を図り、協業の可能性などを調査する。

#### 2. 技術研究会

平成24年度より始まったアジャイル研究会を続けて行う。

組込みシステムの開発にアジャイル開発手法を適用する場合に障害となる条件について技術的及び管理的観点から研究する。

今年度は昨年提案した方法のケーススタディと派生開発とアジャイルの融合について検討を行う。(毎月開催)

#### 3. 技術セミナー

地元大学・企業から先進的な指導者を招聘してセミナー・講演会を開催し、組込みシステム技術の普及・啓発を図る。(年3回開催)

#### 4. 管理者研修セミナー

中堅管理職を対象に指導者・リーダーとして身につけなければならないマネージメント手法を、地元大学の先生を講師に招いて開催する。

#### 5. 実践研修セミナー

アジャイル開発の専門家を招いて実習形式の実践セミナーを開催する。実践セミナーは会員、非会員等多数の参加者を募集する公開形式で開催する。

#### 6. 企業社員交流会

多数の会員企業の社員が相互に交流・親睦をはかれる唯一の機会であるボーリング大会を開催する。

#### 7. 企業訪問

中部地区の会員以外の企業や大学を訪問し、情報交換と協業などの機会を作る。

#### 8. 支部会議、支部会員企業交流会

平成26年度事業について議論し、また会員の参加について協力を得るようにする。キックオフを兼ねて懇親会と講演などの行事も会議後開催する。

会員企業の経営者・幹部社員が情報交換・交流を図る場として忘年会を開催する。

## 北陸支部

本部事業への積極的参加を行うとともに、IT関連団体との連携、組込み技術関連セミナーの開催、情報提供等を通じて会員増強及び組込み技術の普及を図る。

#### 1. 支部会議

事業計画の策定・報告、予算策定・決算報告及び26年度事業のスケジュール等の調整を行い、会議終了後に会員相互の情報交換及び交流会を開催する。(第1四半期と第3四半期に実施)

#### 2. 視察研修

支部会員による国内先進企業の組込み技術の動向について視察研修・意見交換を行い、会員企業の技術向上を図る。(第3四半期)

#### 3. 技術講演会

講師を招き、技術講演会を行う。講演後、講師を交え参加者との交流会を開催する。(第3四半期)

## 近畿支部

昨年度新体制となり、支部会員の協力で市場・総務・技術の各ワーキンググループ活動も充実した年となつたので、今年度も継続していくが「人と人とのつながり」を色々と試行錯誤しながら進めていく。特に心の問題に取り組みたい。

関西地区は近畿経済産業局等の行政や、近畿情報システム産業協議会、関西情報センター、組込みシステム産業振興機構等他の諸団体との協力態勢を常に重視して活動しているので更に推進したい。

9回目の開催となる「組込み総合技術展関西」(ET West)は、新会場のグランフロント大阪で開催が決定している。この展示会は全国のJASA会員の活動の一環であり、支部として運営に協力し、本部の展示会事業を支援する。

## 1. 社員研修会

関西電子情報産業協同組合との共催で新入社員に対するビジネスマナー研修を開催する。

(4月開催)

## 2. 技術者交流フォーラム

会員企業もしくは外部の企業、研究施設等の見学を行い、技術担当社員の情報収集、技術啓発に役立てる。(年3回実施)

## 3. 技術セミナー

組込み技術に関する先端の技術についてセミナーを実施し、技術担当社員の技術啓発や人材育成を行う。(年4回実施)

講師の支払報酬及び交通費を負担し、企業内ではできない研修の場を提供する。

## 4. 技術展示会

「組込み総合技術展 関西」(Embedded Techlogy West)に関する事業。

## 5. 国内視察

国内の視察研修を行い、視察地における組込みシステム技術の調査、地域の経済情勢を視察し、会員に提供する。

また他支部との交流を図り、協会全体の発展を目指す。視察旅費の一部を負担し、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。

## 6. 市場開発交流フォーラム

会員企業もしくは外部の企業、研究施設等の見学を行い、営業担当社員の情報収集、技術啓発に役立てる。(年3回実施)

## 7. 海外視察

海外における組込みシステム技術の実態を調査、現地の経済情勢を視察し、会員に提供する。視察費用の一部を負担し、若い技術者が海外に見聞を広めることにより、組込みシステム技術の普及啓発に寄与する。

## 8. 会員月例会

会員企業の事業及び製品の紹介を行う。(隔月開催)

## 9. 総務交流フォーラム

各方面から講師を招聘し、討論を交えたセミナーを開催する。総務・管理部門担当社員のスキルアップ、情報収集に役立てる。終了後は講師も交えて懇親会を行い、会員の交流を図る。

## 10. 会員交流懇親会

- ・ 会員の交流懇親会を実施する。(7月、11月支部会議終了後)
- ・ 支部活動に参加する機会の少ない若手社員を中心に、他社の社員と交流し、情報収集、ビジネスチャンスに繋がるよう、市場・技術・総務各ワーキンググループ合同の交流懇親会を実施する。(10月開催)

#### 11. 近畿情報システム産業協議会加盟団体主催賀詞交歓会

他団体の会員との交流を図るため、1月初～中旬に大阪科学技術センターに於いて、近畿情報システム産業協議会に加盟する7団体の主催で、新春IT振興フォーラム並びに賀詞交歓会を開催し、他団体の会員及び地域の行政、諸団体メンバーと交流を行う。

#### 12. 支部会議

近畿支部の前年度活動報告及び決算報告、新年度の活動計画及び予算の確認を行う。

#### 13. 役員会・会議

支部事業計画に基づいた具体案の検討を行う。(年5回開催)

また必要に応じて、幹部会を開催する。

#### 14. 企画活動

他団体(近畿情報システム産業協議会、組込みシステム産業振興機構、関西文化学術研究都市推進機構等)の活動に参加し、交流を図る。

また6月に和歌山で行われる近畿情報システム産業協議会のビジネスカンファレンスに参加する。

## 九州支部

組込みシステム応用技術の普及啓発、人材育成、地場振興、内外関係機関との情報交流及び地域連携を推進する。

#### 1. 支部会議

支部事業の活動報告及び進捗状況確認を行う。(年4回開催予定)

#### 2. 協業セミナー

講師を招き、今後のビジネス活性化への知見を得ると共に、懇親会を開催することにより参加企業間の横の連携を図る。

本部協業委員会と連携する。(2月開催予定)

#### 3. ET ロボコン九州地区大会

実施委託団体と協力してETロボコン九州地区大会を開催することで、地場企業及び教育機関の組込み技術向上・普及を図る。

#### 4. ES-Kyushu セミナー共催

九州全域を活動範囲とする「九州IT融合協議会」とのセミナー開催を共催することにより、組込み技術向上・普及、及び九州支部の知名度を上げる。

## 5. 他団体への支援・協賛

主に福岡市内を活動拠点とする団体の活動を支援協賛することにより、組込み技術向上・普及、及び九州支部の知名度を上げる。

## 6. モデルベース開発・検証研究会との連携

セミナー等を開催することにより、双方の活性化を行う。

## 7. 企業見学

近畿支部会員企業への企業見学を行う。

また、同時期に開催される ETWest に参加することで、近畿地区の状況や最新のトレンドに対する知見を高める。(7月開催予定)

## IV 平成 26 年度収支予算書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

一般社団法人 組込みシステム技術協会

## 収支予算書(正味財産増減計算書ベース)

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	( 5,000 )	( 0 )	( 5,000 )
特定資産受取利息	5,000	0	5,000
② 受取入会金	( 2,600,000 )	( 1,200,000 )	( 1,400,000 )
受取入会金	2,600,000	1,200,000	1,400,000
③ 受取会費	( 48,820,000 )	( 43,800,000 )	( 5,020,000 )
正会員受取会費	42,940,000	38,450,000	4,490,000
賛助会員受取会費	5,880,000	5,350,000	530,000
④ 事業収益	( 179,383,589 )	( 160,809,617 )	( 18,573,972 )
普及啓発等事業収益	124,600,000	124,600,000	0
その他事業収益	54,783,589	36,209,617	18,573,972
⑤ 受取補助金	( 4,000,000 )	( 4,010,000 )	( △ 10,000 )
受取地方公共団体助成金	4,000,000	3,050,000	950,000
受取民間助成金		960,000	△ 960,000
⑥ 雑収益	( 713,607 )	( 730,000 )	( △ 16,393 )
雑収入	13,607		13,607
受取利息	700,000	730,000	△ 30,000
<b>経常収益計</b>	<b>235,522,196</b>	<b>210,549,617</b>	<b>24,972,579</b>
(2) 経常費用			
① 事業費			
① 事業費			
役員報酬	( 174,895,981 )	( 150,386,631 )	( 24,509,350 )
給与手当	16,140,000	13,290,000	2,850,000
アルバイト料	20,266,400	15,118,327	5,148,073
退職給付費用	675,000	0	675,000
退職金共済掛け金	2,183,080	376,225	1,806,855
福利厚生費	270,000	339,204	△ 69,204
会議費	4,197,450	3,828,442	369,008
旅費交通費	6,978,590	7,659,140	△ 680,550
通信運搬費	13,195,990	12,528,440	667,550
減価償却費	1,188,576	2,240,496	△ 1,051,920
器具備品費	252,000	252,000	0
消耗品費	0	735,000	△ 735,000
印刷製本費	773,484	701,462	72,022
賃借料	4,300,300	4,904,468	△ 604,168
支払報酬	5,911,842	7,070,885	△ 1,159,043
支払手数料	5,436,000	3,993,191	1,442,809
新聞図書費	151,318	117,234	34,084
水道光熱費	100,000	60,000	40,000
租税公課	291,687	0	291,687
会合費	46,000	139,040	△ 93,040
EDP費	14,486,464	12,580,260	1,906,204
調査委託費	808,216	285,712	522,504
広報費	75,885,940	62,142,105	13,743,835
保険料	750,000	1,040,000	△ 290,000
諸会費	1,644	0	1,644
雑費	0	350,000	△ 350,000
② 管理費	( 58,760,099 )	( 57,826,425 )	( 933,674 )
役員報酬	6,060,000	0	6,060,000
給与手当	7,533,600	20,091,673	△ 12,558,073
アルバイト料	75,000	0	75,000
退職給付費用	1,286,920	198,775	1,088,145
退職金共済掛け金	330,000	200,796	129,204
福利厚生費	3,115,550	5,071,558	△ 1,956,008
会議費	1,620,000	372,646	1,247,354
旅費交通費	3,940,000	2,836,500	1,103,500
通信運搬費	343,078	512,945	△ 169,867
減価償却費	370,000	220,000	150,000
器具備品費	0	318,582	△ 318,582
消耗品費	271,516	219,538	51,978
印刷製本費	382,700	430,712	△ 48,012
賃借料	3,688,158	2,617,045	1,071,113
支払報酬	3,970,000	3,192,510	777,490

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
支払手数料	154,480	286,093	△ 131,613
新聞図書費	263,000	340,274	△ 77,274
水道光熱費	206,313	540,620	△ 334,307
租税公課	20,000,000	18,000,000	2,000,000
会合費	2,958,000	1,700,000	1,258,000
EDP費	291,784	64,288	227,496
広報費	80,000	53,880	26,120
保険料	250,000	257,990	△ 7,990
諸会費	1,220,000	0	1,220,000
雑費	350,000	300,000	50,000
経常費用計	233,656,080	208,213,056	25,443,024
評価損益等調整前当期経常増減額	1,866,116	2,336,561	△ 470,445
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,866,116	2,336,561	△ 470,445
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	経常外収益計	0	0
(2) 経常外費用	経常外費用計	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,866,116	2,336,561	△ 470,445
一般正味財産期首残高			0
一般正味財産期末残高	1,866,116	2,336,561	△ 470,445
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	1,866,116	2,336,561	△ 470,445